

守藤原朝臣保則以高尚等詞問之保則言
国司請非无理致保則高尚等元任彼国史
應知土地之形勢故召問之

元慶二年の条下に小野朝臣素良守將
軍となり同八年此条下に出羽におゐて
志あふ事あり又保則先是右中辨兼權守
もて出羽國より全戦しあふ以て大相忌月山
二祢の勢を奏云とこれ一軍陽盛天皇
元慶二年此条下に見へり

大政官因国宰解狀討覈事情曰避水遷府
之義雖得其宜去中出外之固因其使何者
最上郡地在国南邊有山而隔自河而通夏
水浮舟終有運漕之利寒風結凍曾无向路
之期

右政官の事藏系抄は出官統八省及諸國
天下事悉決此官とあり又宰は必司なり
解狀は俗より目安の事之貞永式目より然
許人之解狀とあり討覈は必極る心之東京
賦は研覈是也といふに同一自河而通ふと
は言上川の通話なりけ川源は奥州と津